



ごあいさつ

鳥取大学大学院連合農学研究科長・農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター 教授
鳥取大学グローバルCOEプログラム「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」拠点リーダー

前 川 二太郎 (まえかわ にたろう)

生物の中で菌類は、「酵母、かび、きのこ」などを含む非常に大きな分類群で、その数は150万種以上と推定されています。菌類は、植物や動物の「分解者」として、自然生態系の維持や環境保全に重要な役割を果たしています。また、「共生者」として、植物の生長を促進し、乾燥や病気に対する抵抗力を高めるなど、菌類がもつさまざまな機能が注目されています。中でも、きのこ類は栄養的に優れた健康食品として広く利用されていますが、最近では、免疫賦活性、抗酸化性、抗変異原性、抗血液凝集性などの薬用効果にも高い関心が寄せられています。このように、きのこなどの菌類は人類にとって有益な未知の機能や成分を有する遺伝資源の宝庫といえますが、学術的にはほとんど未開拓の分野です。鳥取大学では、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター (FMRC) が中心となって、新たな菌類きのこ遺伝資源の発掘と活用についての研究を行っています。特に、平成20年度からグローバルCOEプログラム「持続性社会構築に向けた菌類きのこ資源活用」(文部科学省)において、きのこを含む菌類の活用に関して様々な基礎・応用研究に取り組んでいます。本シンポジウムでは、このような研究の中から、活用に関する最新の研究成果の一端をわかりやすく紹介いたします。さらに、菌類の多様性をより深く理解していただくために、一般的にはあまり知られていない「菌類と昆虫との不思議な関係」、「私たちの身近な里山で繰り広げられている様々な菌類と植物との密接な関係」についても、日本菌学会第一線の研究者がわかりやすく解説いたします。

このシンポジウムを機会に、菌類がどのような生物であり、他の生物とどのように関係しているのか、また私たちの暮らしにどのように役立つのかについて、きのこを含む菌類を理解していただくとともに菌類を身近に感じていただく一助になれば幸いです。